



# おかやま環境ネットワーク NEWS

NO.97  
2022.7

【発行】公益財団法人  
おかやま環境ネットワーク

## 「2021年度助成活動報告会」開催報告

- ◆日時：5月12日（土）13時～14時、オルガ
- ◆参加：26名
- ◆内容：2021年度の助成9団体による活動報告を行いました。
- ◆各助成団体の企画と活動目的
- ①あかいわ美土里の和  
企画：「里山再生プロジェクト」  
目的：「赤磐市の自然環境を永続的に保持し人と自然とが共存する循環型のまちづくり」を理念に、生物多様性を維持する里山づくりをみんなで協力して活動すること。
- ②つやま演劇教育研究会  
企画：「演劇・番組製作を介した環境問題啓発事業の周知・促進」  
目的：津山版カーボンオフセット事業の理解を深め、カーボンオフセット商品の普及を図る。
- ③おかやまエコマインドネットワーク  
企画：「もったいない！～食品ロスを減らそう！」  
目的：県南を中心としていた企画を備前県民局管内の未実施の地域に活動を行うことで食品ロスの周知と参加者が自分ごととしてできる事に気づき行動すること。
- ④旭の自然を守る会  
企画：「冊子シリーズ『旭の里山・生きもの写真集』作成事業」  
目的：多くの人々に里山に生きる動植物に関心をもってもらうため、活動の中で撮りためた生きものの写真を広く多くの人々の目に触れる形でリーフレットにすること。
- ⑤なださきホテルの会  
企画：「各年間活動事業」  
目的：ホテルの保護を中心に自然環境保全活動を通じて地域づくり。
- ⑥旭川源流大学実行委員会  
企画：「岡山県内の底生動物調査③」  
目的：過去2年間の岡山県内の底生動物調査で得られた結果を、一般の閲覧に供することのでき

る水生昆虫と海岸生物の生態写真と生息状況のガイドブックを作成すること。

- ⑦うみもりプロジェクト  
企画：「もかけの海をきれいにしよう」  
目的：虫明扇海岸のボランティア清掃を継続して行うことにより、海ごみを減らし、海岸をきれいにする。親子で海岸清掃を楽しむことで、大人と子どもに環境教育の場を体感してもらう。
- ⑧#おかやまJKnote  
企画：「高校生による食品ロス削減啓発「もったいない屋台」の運営」  
目的：食品ロスについて、次世代の高校生が何ができるのかを考え、高校生の立場でも可能な具体的かつ継続できるアクションを起こす。
- ⑨岡山学芸館高等学校医進サイエンスコース  
企画：「アマモ実生苗育成における栄養塩類濃度および米子湾干潟物質生産量評価」  
目的：4年目となる日生町鹿久居島米子湾干潟でのベントス調査を継続し、干潟表土の付着珪藻類クロロフィルa量の分析を通して、物質生産量を評価する。



各団体の報告を受け、助成部会（代表：嶋氏）より、各活動へのコメントが添えられました。

2022年度は、8団体が助成活動を展開する予定です。

また、2023年度の助成事業の募集要項のホームページへの掲載は、9月初めを予定しています。申請をご検討下さい。

## 代表理事就任のご挨拶

沖 陽子

この度、野上祐作氏の代表理事御退任に伴い、新たに、小職が2022年6月より代表理事に就任致すことになりました。野上氏同様、皆様方の御厚情を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大以来、我々は今まで何の疑問もなく過ごしてきたライフスタイルに様々な制約を余儀なくされ、時代を変えなければならない転換期を肌で感じるようになりました。もうコロナ期以前に戻ることはできません。

このような社会情勢下で、「公益財団法人おかやま環境ネットワーク」は2021年に財団設立20周年を迎えました。すなわち、二十路（ふたそじ）で一人前として認められるようになる年齢となりました。千葉初代理事長、その後を引き継がれた青山元代表理事、そして2013年に公益財団法人に移行した本財団を野上前代表理事がリーダーシップを発揮されて、理事、評議員、会員および事務局の方々と一緒に育てて下さいました。

さて、世界を見回すと、新型コロナパンデミックを始め、緊迫が続くロシアによるウクライナ侵攻、それに伴う食料、エネルギー、金融等で、全世界は深刻な危機にさらされています。我々の身近な生活も原料やエネルギー不足からモノの価格に大きな影響がでています。地球温暖化による自然環境の変化のような、人類の活動による間接的な影響のみならず直接的な人為活動による危機感が生じてきたのも昨今の現状です。このような現実を踏まえて、我々は地球環境破壊の加速度を抑え、我々の生活を安全で快適な空間にするにはどうすれば良いのでしょうか？

最近、「人新世（じんしんせい）」という言葉をよく耳にします。人類が地球の地質や生態系に与えた影響に注目して、21世紀に入ってから新たに提唱されている「人類の時代」という意味の地質学の新しい時代区分です。まだ非公式な使用ですが、地球温暖化等の気候変動、大量絶滅による生物多様性の喪失、人工物質の増大、化石燃料の燃焼や核実験による堆積物の変化等が特徴としてあげられ、人類の活動が原因とされています。SDGsが提起する経済の持続的な発展と安定した地球環境、そして包摂的な社会の実現を考える場合、本質的な課題にも目を向けることが必要であるということをお人新世は教えてくれます。



沖 陽子

振り返って、我々「おかやま環境ネットワーク」は未来社会に向けて、何をすれば良いのでしょうか？二十路を迎えた今、設立20周年記念シンポジウムを開催し、岡山の自然とくらしの20年を振り返り、今後の10年に向けて組織行動方針を理事会にて協議しました。

そして、「おかやま環境ネットワークは、産学官民連携の下、ネットワークを拡げながら、未来社会に活かす環境マインドの醸成と豊かな岡山の自然環境を維持する地域力を創り、それらを次世代に継承することをミッションとする」ことを決めました。

小職の所信表明になりますが、今までの事業を継続展開しながらも、①産学官民の連携強化、②活動テーマはグローバルとローカルの双方向の流れと横ぐしを重視、③次世代の育成事業に注力し、具体的な行動を基本姿勢として、大局的に物事の本質を理解すると共に体験知と総合知を付加し、ワクワク感を持って若者が集まってくるような財団に深化させたいと考えています。

先日、「はやぶさ2」が地球に持ち帰った小惑星「リュウグウ」の砂から23種類のアミノ酸が確認されました。宇宙にも生命のもととなる材料があったという事実は宇宙が我々に与えてくれた大きなロマンです。会員の皆様の熱い想いとロマンが本財団の機動力となります。個々人の環境問題に対する適切な理解と、幅広い主体の連携による本財団の行動力をご一緒に高めていきましょう。

### 沖 陽子氏

1951年生まれ

- ・岡山県立大学理事長兼学長
- ・岡山大学名誉教授（元岡山大学副学長）
- ・公益財団法人おかやま環境ネットワーク代表理事
- ・環境省中央環境審議会水環境部会  
瀬戸内海保全小委員会専門委員
- ・農学博士（京都大学）

## 代表理事退任のご挨拶

野上 祐作

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別の御厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年の2月、青山勲氏の代表理事退任に伴い、新たに代表理事を務めて参りました。

おかやま環境ネットワークは、ゴミの焼却などで発生するダイオキシンや、外因性内分泌攪乱化学物質（俗に、環境ホルモンと言われる）などによる環境問題が世間を賑わせていた2001年に財団として設立されました。途中、2013年に公益財団法人として再出発いたしました。発足から数えて20年間にわたって岡山の環境保全活動に携わる皆さんをつなぐネットワーク活動を行ってきました。

昨年11月28日、岡山国際交流センターを会場として財団設立20周年の記念シンポジウムを開催いたしました。新型コロナパンデミックの終息が定かでない中、会場参加とオンライン参加との併用開催を余儀なくされました。

シンポジウムでは、環境ジャーナリストである枝廣淳子さんの「2030年持続可能な社会実現のために地域環境活動が目指す方向について」と題する基調講演を聴き、それに続くパネルディスカッションを通してネットワークのこれから先の10年の長期ビジョンについて考えることができました。その内容は記念誌に掲載されております。

この度、私儀、八十路を目前に控え、設立20年という節目を機に代表理事を退くことを決意いたしました。そして、次の環境ネットワークを担う柔軟な発想に富んだ若い方に代表理事をバトンタッチすべきと考えました。

在任中は、皆様のご協力を賜りながらなんとか大任を果たすことができたと思っております。ひとえにサポートして頂いた若い方々に感謝いたします。

楽しかった思い出としては、これから先の10年の活動指針について理事の皆様方と熱心に議論を重ねることができたことです。

人類の排出した温室効果ガスによる地球温暖化は世界中で気候変動をもたらす、岡山の自然生態系にも大きな影響を及ぼしています。温暖化を抑制するには、石炭・石油などに依存しない脱化石社会へのパラダイムシフトが必要であります。そのためには、石炭・石油などの代替エネルギーとしてソーラーや風力などの再生可能エネルギーを活用する社会を



野上 祐作

構築しなければなりません。

さらに、石油を原料とする様々なプラスチック製品がもたらす廃棄物問題も海洋の生態系と強くかかわっています。今まで私達が馴染んできた使い捨てのライフスタイルを見直す必要があります。

これらの環境問題は相互に関係しあっており、今や、単独で取り扱うことには限界があります。

2030年に向けてのおかやま環境ネットワークの役割として、森・里・川・海などの生態系の保全活動団体はもとより、エネルギー問題を踏まえた気候変動への対応や、廃プラスチックなどの廃棄物問題などへの対応に取り組む活動団体を機能的に結びつけ、それぞれの問題を様々な視点で考えるネットワークを再構築し、私達のできることを社会に発信することだという一致点を見出しました。

これらを実現するには産官学民の協働が重要であります。さらに、世代間の繋がりが欠かせません。

10年先の未来社会に活かす環境マインドと、岡山の豊かな自然と暮らしを持続する地域力を養い、それらを次の世代を担う子どもたちに継承していただきたいと思います。

代表理事退任後もしばらくネットワークの活動に理事としてかかわっていきたく思っておりますのでよろしく申し上げます。

### 野上 祐作氏

1943年生まれ

- ・岡山理科大学名誉教授
- ・公益財団法人おかやま環境ネットワーク前代表理事
- ・私立大学環境保全協議会顧問等
- ・医学博士（岡山大学）

## 2021年度事業報告・2022年度事業計画

今回、「2021年度事業・決算報告 2022年度事業計画・予算」書を同封しています。

2021年度は、特に上半期は新型コロナ感染拡大の影響で、2020年度同様、参加型の事業の多くを中止せざるを得ない事態となりました。

一方、財団設立20周年を迎え、11月には国際交流センターでの「財団設立20周年記念シンポジウム」を開催し、年度末にはシンポジウムの様子やこれまで開催した各種シンポジウム、ホタルフォーラム、助成事業（2010年度以降）の様子を収録した「記念誌」を発行することが出来ました。

これまで様々な事業が長年にわたり継続して展開できてきたのは、県内をはじめとした多くの皆様との協働や、資金面及び情報提供等によるご支援・ご指導によるものです。

今回のネットワークニュースでは、代表理事の交代についてご報告させていただきました。

また、事業報告・計画書では、「2030年に向けた組織行動方針」及び「おかやまの豊かな自然と暮らしを考える部会」設置について掲載させていただきました。

地球規模で複雑化した様々な環境課題に直面していますが、今後も、さらに皆様とのより強固な協働と連携により、県内での持続可能な自然環境と暮らしの実現に向け、着実に歩を進める所存です。お力添えのほど、どうぞよろしくお願い致します。

## ニュースへのチラシ等の同封物に関するお知らせ

おかやま環境ネットワークで会員の皆様にニュースを発行しています。ここに、会員団体の各種イベントのチラシ等を同封することができます。

同封希望がありましたら、発行前月の第2週末までに事務局へご連絡ください。

※メールニュースは毎月第2・4水曜日を基本に発行しています。メールニュースへ掲載希望がありましたら、毎月第2・4月曜日までに原稿を事務局に送信ください。

※特に「助成団体の対象事業」に関しましては、より広くお知らせをしていきたいと考えていますので、是非ご連絡ください。

## メールニュース配信 希望者募集中

おかやま環境ネットワークの情報や、会員団体のイベント情報等を掲載しています。

配信をご希望の方は、メールにて件名：『メールニュース配信希望』とし、メールアドレス・お名前（必須）、連絡先・所属団体・会社名（任意）をメール文にご記入の上で、右記事務局アドレスまで送信ください。

現在1,300名を超えるみなさんにご登録いただいています。

## 個人・団体・企業 会員 募集中

おかやま環境ネットワークは、皆様からの会費、寄附、ボランティア活動で支えられています。ぜひ会員となり、活動をご支援ください。

### 【年会費】

個人・団体：2,000円

企業等：20,000円

大学生・大学院生・高校生：無料

2022年度の会費納入に向け、振込用紙を同封しております。主旨をご理解の上、お振込みくださいますよう、お願いいたします（入れ違いでお振り込みいただいておりますらご容赦ください）。

会費は、企業・協同組合：1口2万円、団体・NPO法人・個人：1口2千円、1口以上をお願いいたします。



発行：公益財団法人おかやま環境ネットワーク

〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7(オルガ6階)

F A X：086-256-2565

携帯電話：070-2355-1420

E-mail:kankyounet@okayama.coop

HP:https://okayama.coop/kankyounet/

Facebook:公益財団法人おかやま環境ネットワーク